様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　6　月　5　日現在

機関番号：12601
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009　～　2012
課題番号：21720225
研究課題名（和文）日本中世朝廷社会における政務運営システムと公事情報の伝達

研究課題名（英文）　Study of administrative systems and the conveyance of information onstate affairs in medieval Japanese court society.

研究代表者
遠藤　珠紀　（Endo Tamaki）
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：10431800

研究成果の概要（和文）：
主に朝廷運営の実務を担った中下級官人の活動について中世全体を見通す形で検討を行った。具体的には、人員構成・経済基盤の変化、公事情報の伝達、公武関係の各側面から検討を進めた。またこれまで十分に利用されてこなかった古記録類の収集、紹介に努めた。これらは朝廷に興味がある研究者のみならず、中世史研究全体、あるいは国文学・美術史などの研究にも資するものと考える。

研究成果の概要（英文）：
In this study, I focused on the activities of middle and lower ranking officials who engaged in practical operations to run the court while attempting to provide a fuller understanding of the “medieval period.” I specifically investigated different aspects such as personnel organizations, changes in the economic foundation, and the conveyance of information on state affairs, as well as the relationship between the court and the bakufu.
I also collected and introduced courtier journals of which scholars have failed to fully utilize. I believe that this study is useful not only for researchers who are interested in the court, but it also benefits different fields such as medieval Japanese history, Japanese literature, and art history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本中世史・古記録・朝廷官司

１．研究開始当初の背景

従来、日本中世史研究は武家政権の研究が中心的位置を占め、朝廷の研究は等閑視されてきた傾向がある。しかしながら中世においても朝廷政権は国政の重要な一端を担っており、その政務運営システムは、律令制以来、その時々の時代に即して様々な形で合理化が進められてきた。よって当該期の朝廷社会の構造変化、機能を明らかにすることは、中世社会の特質、また武家政権や在地の構造、ひいては通時代的な「国家」を考察する上でも必要不可欠である。
研究代表者は2007年～2008年度若手研究(スタートアップ）に採用され、「中世朝廷社会における官司制度と政務運営システム」を研究課題として研究を進めてきた。本課題はそれを継続・発展させ、日本中世の朝廷制度に関する研究を深めんとしたものである。中でも実務に携わる貴族・官人の代々の日記（古記録）を検討することで、中世を通した朝廷政治・制度の変遷を明らかにし、同時に古記録の史料学的研究を試みた。

２．研究の目的

１）中世の朝廷社会で実務を担った中下級官人の活動・役割、その中世を通した変遷から、朝廷全体の政務運営システムを明らかにすること。
２）研究の基盤となる中世の貴族たちの日記（古記録）の蒐集、検討、紹介を行うこと。この時、特に同一の家系の代々の日記に注目し、比較する。

３．研究の方法

大きく以下の二側面に注目する。
一つ目は、中下級官人の各家の代々の日記（古記録）から、それぞれの家の役割・政務に関わる記事を抜き出し、その変化を追うこと。
二つ目は、それらの家による調停儀式の中での業務分担・情報の流れを追うことである。
個別の家としては、特に下級官人として中原氏、中級官人として広橋家・中御門家などに注目した。これらの家は、中世を通して実務に携わる家だったためである。
基礎資料の調査のため、国立歴史民俗博物館、天理大学付属天理図書館、宮内庁書陵部をはじめとする諸機関、また各地の文書所蔵者の許に調査に赴き、マイクロカメラによる写真撮影や紙焼き写真の購入を行った。

４．研究成果

朝廷制度史に関しては、初年度に従来の研究史の総括と課題の析出を試みた（「鎌倉時代の朝廷制度史研究」，『歴史評論』714)。その上で、まず官司運営システムの変化を人員構成、経済基盤の変化から探った。その成果は論文、単著『中世朝廷の官司制度』などで公表した。個別官司に留まらず、相互の情報伝達、朝廷全体の変遷と関係づけて考察を試みた。最終年度の 2012 年度には、主に公武関係に注目して研究を進めた。これらにより中下級官人の役割の一端が明らかになったと考える。
こうした研究の基本史料となる古記録の検討では、下級実務官人および中級実務官人の記録に注目した。前者としては、外記局を相伝した局務家の日記・故実書である『局中宝』、『外記日記』『大外記中原師廉記』『宗賢卿記』『職原鈔』などを検討し、翻刻・紹介を行った。後者としては、特に公武関係でも大きな役割を果たした広橋家に注目し、「綱光公記」（『東京大学史料編纂所紀要』20～23、2010～2013)、「『頼資卿熊野詣記』『後鳥羽院熊野御幸記』『修明門院熊野御幸記』などに注目した。また吉田神道をかかげ特異な勢力を持った中級貴族吉田家の記録に見える「兼見卿記紙背文書」「舜旧記紙背文書」などを翻刻・紹介した。これらはいずれも同一の家系の代々の日記であり、その性格の変化を確認できる。これらのうち可能なものについては、史料編纂所 HP にて公開を進めている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 19 件）

① 遠藤珠紀,「「豊臣伝奏」の成立と展開」,『東京大学日本史学研究室紀要別冊　中世政治社会史論叢』,2013 年 3 月,311p-321p、査読なし

② 遠藤珠紀,「中世前期下級官人の年中行事」,遠藤基郎編『生活と文化の歴史学２年中行事・神事・仏事』,竹林舎,2013 年 3 月,370p-395p、査読なし

③ 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎,「綱光公記　寛正三年暦記（二）寛正五年暦記（一)」,『東京大学史料編纂所紀要』23,2013 年 3 月,168p-179p、査

読なし

④ 子拓・遠藤珠紀・久留島典子・久水俊和・丸山裕之,「史料編纂所所蔵『大外記中原師廉記』」,『東京大学史料編纂所紀要』23,2013 年 3 月、212p-232p、査読なし

⑤ 子拓・遠藤珠紀,「國學院大學図書館所蔵『舜旧記』紙背文書」,『國學院大學校史・学術資産研究』5,2013 年 3 月,299p-314p、査読なし

⑥ 遠藤珠紀,「足守木下家文書に残る三通の位記の再検討」,『日本歴史』778,2013 年 2 月,16p-30p、査読あり

⑦ 遠藤珠紀,「消えた前田玄以」,山本博文・堀新・曽根勇二編『偽りの秀吉像を打ち壊す』,柏書房,2013 年 2 月,43p-67p、査読なし

⑧ 遠藤珠紀,「尊経閣文庫所蔵『局中宝』解説」,尊経閣文庫編『局中宝』,八木書店,2012 年 8 月,3p-11p、査読なし

⑨ 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎,「綱光公記　寛正三年暦記（一）」,『東京大学史料編纂所研究紀要』22,2012 年 3 月,161p-176p、査読なし

⑩ 子拓・遠藤珠紀,「『兼見卿記』自元亀元年至同四年記紙背文書」,東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-3『目録学の構築と古典学の再生』,2012 年 3 月,167p-193p、査読なし

⑪ 原雅治・遠藤珠紀・大塚未来・小瀬玄士・末柄豊・丸山裕之,「宮内庁書陵部所蔵三条西本『宗賢卿記』」,東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-4『古記録の史料学的な研究にもとづく室町文化の基層の解明』,2012 年 3 月,40p-102p、査読なし

⑫ 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎,「綱光公記　享徳三年暦記」,『東京大学史料編纂所紀要』21,2011 年 3 月,88p-101p、査読なし

⑬ 遠藤珠紀,「穴山信君と策彦周良」,『日本歴史』754,2011 年 3 月,86p-91p、査読あり

⑭ 遠藤珠紀・尾上陽介・宮崎肇,「『頼資卿熊野詣記』『後鳥羽院熊野御幸記』『修明門院熊野御幸記』紙背文書の紹介」,『鎌倉遺文研究』26,2010 年 10 月,95p-110p、査読あり

⑮ 遠藤珠紀,「『職原抄』の伝来について」,阿部猛編『中世政治史の研究』,日本史史料研究会,2010 年 9 月,953p-972p、査読なし

⑯ 遠藤珠紀,「中世朝廷の運営構造と経済」,『歴史学研究』872,2010 年 8 月,61p-71p、査読あり

⑰ 遠藤珠紀・須田牧子・田中奈保・桃崎有一郎,「綱光公記　文安三年・四年暦記」,『東京大学史料編纂所紀要』20,2010 年 3 月,99p-111p、査読なし

⑱ 遠藤珠紀,「鎌倉時代の朝廷制度史研究」,『歴史評論』714,2009 年 10 月,32p-44p、査読なし

⑲ 遠藤珠紀,「尊経閣文庫所蔵『外記日記（新抄）』について」,『日本歴史』731,2009 年 4 月,88p-96p、査読あり

〔学会発表〕（計 3　件）

① 遠藤珠紀「木下家文書に残る三通の位記天正一三年の朝廷」,国史学会例会,2012 年 12 月,於國學院大学

② 遠藤珠紀「中世の日記と写本作成」,愛知学院大学人間文化研究所プロジェクト研究会「日記の可能性」,2012 年 3 月,於愛知学院大学

③ 遠藤珠紀「中世朝廷の運営構造と経済」,歴史学研究会大会中世史部会報告,2010 年 5 月,於専修大学

〔図書〕（計 1　件）

①遠藤珠紀『中世朝廷の官司制度』吉川弘文

館、2011、381

６．研究組織
(1)研究代表者
　　遠藤　珠紀（Endo Tamaki）
　東京大学・史料編纂所・助教
　研究者番号：10431800

(2)研究分担者
　なし

(3)連携研究者
　なし